

場所・面積	大阪府阪南市、面積：40.17 ha
管理目的	第2期 阪南市総合戦略において、取り組みとして「里海里山を活かし、地域や民間との連携により、環境を始め、観光・産業、教育、暮らし、健康、スポーツなどの様々な分野の融合を行うことで、魅力の創出と地域の活性化を図るとともに、交流人口や関係人口の増加につなげます。」がうたわれている。さらに、2022年度自治体SDGsモデル事業では「陸と海からカーボンニュートラルを実現、アマモ場（漁場）再生によるブルーカーボンの推進」が明記されている。これらを受けて、セブン-イレブン記念財団と阪南市と協定を締結し、「アマモ場再生及び沿岸清掃活動を核とした森里川海の保全に貢献するとともに、地域社会との交流を実施する」を目的としている。
サイト概要	大阪府阪南市に位置する当サイトは、大阪府下では唯一の半自然海岸の浅場が広がっている。浅場にはアマモをはじめとした海草・海藻類からなる藻場が広がり、この藻場を棲み処や稚魚の育成場、産卵場として利用する底生生物・魚類など多種多様な生物が生息している。このような環境を利用して、阪南市内の小学校の海洋教育の場として活用されているのはじめ、周辺地域の団体の体験型環境学習の場としても利用されているほか、浅場を利用して魚をすくって捕まえる「すだて遊び」は多くの観光客で賑わっている。また、大阪府下で初めて本格的な養殖に成功した「波有手のカキ」のカキ小屋が冬期に漁港内で営業しており、年間数千人が訪れている。
サイト周辺の環境	当サイトは、背後に和泉山脈が迫っており、森里川海が近い距離で接している。和泉山脈を水源とする水は、男里川をはじめとした3つの河川を伝わり海に流れ込んでいる。それぞれの河川では、アユやウナギの遡上が確認されているほか、絶滅危惧種のカスミサンショウウオが生息するなどの多種多様な豊かな環境が広がっている。里では、多くの水田や畑が広がっており、秋の豊作を祝い、海の恵みに感謝する「やぐら祭り」が、現在でも盛大に開催されている。
アピールポイント	大阪府下で、半自然海岸の砂質の浅場が広く残っている場所は阪南市の当サイトが唯一で、大阪府下最大のアマモ場が広がっている。この自然豊かな環境を生かし、アマモ場保全活動を通じて子供たちが我が町の海の豊かさを実感し、将来自慢できるようにしていきたいとの思いで、2006年より阪南市の小学校での海洋教育を行っている。現在は市内の全小学校の全学年で取り組まれている。2018年には「全国アマモサミット2018 in 阪南」を開催し、これらを含めた活動が評価され、2019年に開催されたG20大阪サミット配偶者プログラムの「海は輝くいのちの源」シンポジウムにおいて、各小学校の児童代表が登壇しアマモ場再生活動の紹介と海の大切さについて各国のファーストレディーと意見交換を行った。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

当該海域は、アマモ場が広がっており、阪南市が海洋教育の一環として継続的なアマモ場再生活動や海岸清掃を実施。刺し網漁・カゴ漁など漁業者が漁場として利用することで生態系のバランスをとる一役を担っている。

【主な植生】

アマモ、ワカメ、ヒジキ、マクサ、オゴノリ、アナアオサ

【確認された主な動植物】

コウイカ、アオリイカ、メバル（稚魚）、クジメ、マダイ（稚魚）



写真番号： 写真の撮影年月：2022年6月14日

写真の説明： アマモ場



写真番号： 写真の撮影年月：2023年6月3日

写真の説明： メバル（稚魚）

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

近年、海草・藻類によるブルーカーボンの固定が認知されつつあり、当該海域のアマモ場を含めたブルーカーボン生態系は、浅場がほとんど消失した大阪湾沿岸において重要な海域であると言える。また、海洋教育の場としても活用されている。

【主な植生】

アマモ、ワカメ、ヒジキ、マクサ、オゴノリ、アナアオサ

【確認された主な動植物】

アマモ、コウイカ、アオリイカ、メバル（稚魚）、クジメ、マダイ（稚魚）



写真番号： 写真の撮影年月：2019年6月25日
写真の説明： アマモの光合成による酸素放出



写真番号： 写真の撮影年月：2023年6月20日
写真の説明： 小学生の海洋教育

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、地域の動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

当該海域は、アマモ場が広がっており、大阪府レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類のヒメイカやニホンスナモグリなどの貴重な生物の生息場になっているほか、メバル、コウイカなどの有用生物の稚魚の成育場となっている。

【対象となる動物種】

コウイカ、アオリイカ、メバル（稚魚）、クジメ、マダイ（稚魚）、ヒメイカ、ニホンスナモグリ、マアナゴ（幼生）

【動物が利用している生活史】

繁殖、採餌、移動



写真番号： 写真の撮影年月：2023年7月13日
写真の説明： コウイカ（稚魚）



写真番号： 写真の撮影年月：2018年5月18日
写真の説明： アナゴの幼生（レプトケファルス）

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 阪南セブンの海の森活動で、毎年6月にアマモの花枝採取と生き物調査、10月にアマモの播種を実施。 ● 阪南市の5小学校では海洋教育の一環として、5月にアマモ苗移植、6月のアマモ花枝採取と生き物調査、10月にアマモの播種と苗床づくりを実施。 ● NPOが毎年6月にアマモ場面積調査を実施。 	<p>【モニタリング対象】</p> <p>アマモおよびアマモ場</p> <p>【モニタリング場所】</p> <p>阪南市尾崎町8丁目地先 阪南市鳥取および新町地先 阪南市箱作地先</p> <p>【モニタリング手法】</p> <p>アマモ場面積調査（ドローンおよび目視による調査） アマモ花枝採取および播種（苗移植含む） アマモ場の生き物調査（大阪湾生き物一斉調査として実施）</p> <p>【実施時期及び頻度】</p> <p>アマモ場面積調査：4月～6月 アマモ苗移植：5月 アマモ花枝採取：6月 アマモ播種・苗床づくり：10月～11月</p> <p>【実施体制】</p> <p>セブン-イレブン記念財団、阪南市、NPO大阪湾沿岸域環境創造研究センター、チーム☆ガサ、自然と本の会、尾崎漁業協同組合、西鳥取漁業協同組合、下荘漁業協同組合の協働で実施。</p>